

評価

評価について …

指導者は、ねらいを設定して授業に臨むが、そのねらいをゴールとして児童の評価は行わない。

評価の見取り 児童の発言や記述

※表情や反応も見取る
※授業後の聞き取りからも見取れる

児童 評価の視点

～学習過程や成果を 道徳科の目標に照らし、児童を認め、励ます視点で～

★目標に掲げる学習活動における児童の具体的な取り組み状況（学習状況・道徳性に係る成長の様子）を、学習活動全体を通して見取る。

一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているかどうか。

- ・道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠や、そのときの心情を様々な視点から捉え考えようとしている。
- ・自分と違う立場や感じ方、考え方を理解しようとしている。
- ・複数の道徳的価値の対立が生じる場面において、取り得る行動を多面的・多角的に考えようとしている。等

道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかどうか。

- ・登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりに具体的にイメージして理解しようとしている。
- ・現在の自分自身を振り返り、自らの行動や考えを見直している。
- ・道徳的な問題に対して自己の取り得る行動を他者と論議する中で、道徳的価値の理解を更に深めている。
- ・道徳的価値を実現することの難しさを自分のこととして捉え、考えようとしている。等

指導と評価の一体化

指導に生かされ、児童の成長につながる評価

指導者 道徳科の授業に対する評価の観点

～児童が多面的・多角的に捉えられる、自分事として捉えられるための、授業(指導)改善に向けての観点で～

★下記の学習活動について、児童が多面的・多角的に考え、自分事として捉えるための指導の手立ては、ねらいに即したものになっていたかを、右の6つの評価の観点を基に具体的に振り返る。

・道徳的諸価値について理解する

道徳的価値の意義及びその大切さを理解する。

・自己を見つめる

道徳的価値を自分のこととして感じたり考えたりする。自分の経験やそのときの感じ方、考え方と照らし合わせて考えを深める。

・物事を多面的・多角的に考える

多面的・多角的に考える学習を通して、価値理解と同時に人間理解や他者理解を深め、更に自分で考えを深める。

・自分の生き方についての考えを深める

自分自身の問題として受け止める。伸ばしたい自己を深く見つめる。これからの生き方の課題を考え、それを自己の生き方として実現していこうとする思いや願いを深める。

道徳的価値の理解を基に自己を見つめ、自分の生き方について考えを深められる構成、ねらいに即した指導の手立て

児童が多面的・多角的に捉えられる、自分事として捉えられる指導の意図に基づいた発問

児童の反応を受け止め、指導に生かす

教材・教具の活用

児童の実態・発達の段階に合った指導方法

配慮を要する児童への対応